

年頭にあたり

J R 東海労新幹線関西地本大阪交番検査車両所分会

分会長 多田 一夫

闘 春

新年明けましておめでとうございます。

昨一年、組合員皆さんの分会運動に御協力いただいた事に執行委員会一同、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

米国のサブプライムローンの破綻に端を発した経済危機は、世界中を危機的状況に落とし込めました。資本主義の崩壊とも思われる出来事が誰の目にも明らかになったのではないのでしょうか。その事により、民主党政権が誕生し何かが変わるのではとの思いがあります。私たちはただ単に民主党政権に幻想を抱くわけにはいきません。労働者・組合組織人として、しっかり見ていく必要があります。

昨年の「半日単位での年休取得」（半休）問題では、会社は「この職場では適用しない」「代務者がいないから出来ない」と言っていました。本部・本社間では「半休制度の特記事項を外して年休取得と同じようにする」との確認を現場では無視をしました。就業規則にも管理者が言っていた内容はありません。

この問題もこだわりを持って大きな声を皆で出した結果、勝ち取れたのです。今ではユニオン若手も堂々と半休を利用しています。職場における疑問や問題を解決するためにも、会社に自信を持って質問して行きましょう。

私たちは、会社と権力が一体となった J R 蒲郡駅事件や J R 浦和電車区事件をデッチ上げることで、組織破壊を目論んだ攻撃に果敢にたたかい、組織強化を勝ち取って来ました。そのたたかひの教訓と反省点をしっかり捉えかえしをして、次なる取り組みに組織的にたたかひを進めるものです。

この一年も昨年同様に、職場の問題を中心に組合員の利益を最大限守る事を掲げ、組合員の皆さんと共に奮闘して行きますので、御協力をよろしくお願いいたします。

